

にしんじょう  
西武門節  
(三下げ)

1. 行ちゆんどーや加那志 待ちみそーれ里前

にしんじょう うえま うとむ  
西武門ぬ間や 御供さびら ヨーテ

うとむ  
じんとー御供さびら

2. 片袖や紺地 片袖や浅地よ

いち むるす くんじ ち  
何時が諸染みぬ紺地着ゆがヨーテ

す くい わんう  
染みなち呉りよーや 我思むや

3. 染みゆらば里前 小鳥ぬ如によ

あさじ ゆる  
浅地どんやりば 許ちたぼりヨーテ

ゆる  
じんとー許ちたぼり

4. またい参ね里前 車乗ていいもりよ

わん にしんじょう うま  
我や西武門に御待ちさびらヨーテ

す くい わんう  
染みなち呉りよーや 我思むや

もうお城に行かなければなりません。  
お待ちください、西武門の間はご一緒してお見送りいたします。

(互いの立場の差をたとえて)  
袖の片方は紺地で、もう片方は浅地  
いつになったら両袖を染めた紺地を  
着られるのでしょうか。  
どうか染めてください、私は願っています。

(思いの深さをたとえて)  
染めてくださるならば 小鳥のような濃い黒  
に染めてください。浅地のような薄い色には  
なさらないで下さい。

また車(人力車)に乗っていらして下さい。  
私は西武門の入り口であなたをお待ちしております。

<解説> 昭和7年 作詞：川田松夫 歌劇「西武門哀歌」の一節

官僚と辻の遊女の相聞歌です。(辻は公娼制度に基づいた高級遊郭街)  
当時、辻の遊女とお客との恋愛は禁止されていました。

西武門は那覇の幹線道路の名称。辻遊郭は西武門通りの西側にありました。

西武門節 (三下げ) 七=七# 歌:合老四上中工五七

四 中 合 五 工 中 七 上 合 老 四 五 四

合	老	上	四	老	合	四	中	工	五	四	五	四	中	
いかすま	ちゆたみた	んすゆい	んうづい	どいらめ	おいやばね	かくささ	あうあ	なんとう	あんう	しじめ			まかく	ちたがる

七	五	四	工	中	七	上	合	老	四	四	合	老	
みすら	いうあ	そでいぬ	おいいう	れやぬてい	ええあう	さあく	あさと	とじにり	めよよ			にいあ	しちさん

上	四	老	合	四	中	工	五	四	五	四	中	七	五		
んがじ	んあい	じよ	おぬるん	うえす	えうあん	まみり	あいに	やぬば			うくゆ	とんる	むじち	うい	さち

四	工	中	七	上	合	老	四	四	中	合	五	工
	びゆ	らがり	ああ	あよ	あお	あお	てて	じん	と	ち	う	と

中	七	上	合	老	四	五	五
むや	う	さ	あ	び	ら		

1. 行ちゅんどーや加那志 待ちみそーれ里前 西武門ぬ間や 御供さびら ヨーテ じんとー御供さびら
2. 片袖や紺地 片袖や浅地よ 何時が諸染みぬ紺地着ゆがヨーテ 染みなち呉りよーや 我思むや
3. 染みゆらば里前 小鳥ぬ如によ 浅地どんやりば 許ちたばりヨーテ じんとー許ちたばり
4. またい参ね里前 車乗ていいもりよ 我や西武門に御待ちさびらヨーテ 染みなち呉りよーや 我思むや